



文字でのやりとりは会話とどう違う？

⑬文字でのやりとりは会話とどう違う？

No.13-1 ネットでは文字のやりとりが中心

●文字のやり取りは行き違いが生じやすい

インターネットは、文字のやりとりが中心です。これは、相手の表情や声質、身振りなどが見えないコミュニケーションです。会話を楽しむように、短い文字でやりとりするサービスが、今の子どもたちには人気ですが、「送る人」の思いを理解するためには情報が少ないことから、行き違いが生じやすく、それが元となっていじめにつながるといったケースも見られます。

表情が見えず誤解も

れらはほとんど使えないから、そもそも伝わりにくいんだよ。例えば、こんな場面。給食当番のA君が、カレーの入った容器を運ぼうとして落としてしまい、カレーは半分以上こぼれてしまった。その夜、友達B君はA君にごつメールしたんだ。へきようは大変だったな。みんな

なカレーが好きだからがつかりしてた。次は気を付けろよ。うまホ うーん、これって励ましているの？ よく分からないな。A君はどう思うかな？ 生涯学習課 そうだね。B君はA君を励まそうと思って、ボンと肩をたたくような気持ちで「気を付けろよ」と送ったかも

しれない。でも、これじゃA君はさらに落ち込んでしまうかも。文字だけでは思いが正しく伝わりにくいからこそ、相手を思いやり、丁寧な言葉遣いを心掛けようね。そして送る前には何度も読み返そう。けれど何より、思いを伝えたいなら会って話すのが一番だよ。

No.13-2 文字だけでは思いが伝わりにくい

●思いが正しく伝わる確率は 50%

文中の例にもあるように、「気を付けろよ」や「何で来るの?」、「おかしい」などの短い言葉だけでは、「送る人」の思いや感情を、相手に正しく伝えるのは難しいことです。メールやメッセージでの文字だけのやりとりでは、「送る人」の思いが「受け取る人」に正しく伝わる確率は50%程度との実験結果もあります。このことは、相手の表情や身振り、声の抑揚などが無いコミュニケーションでは、そもそも誤解やすれ違いが生じやすいことを表しています。

No.13-3 思いを伝えたいなら会って話すのが一番

●相手の理解を求めすぎず「余裕をもつ」

親しい間柄であっても、相手の意図や自分のメッセージへの反応は分かりにくいものです。LINEなどのメッセージングアプリを利用する際も、対面よりも真意は伝わりにくいことへの理解が必要です。仲のいい友達グループでも行き違いはあるものです。普段の会話を大切に、信頼できる関係を築くことが大切です。また、相手に理解を求め過ぎず、互いが気持ちに「余裕をもつ」ことも大切です。

